

開催日時：2003年3月8日（土） 10:00～12:00

場 所：京都市リサーチパーク 地下1階 バズホール

参加者数：委員12名、他部会委員2名、河川管理者21名、一般傍聴者85名

1 決定事項

- ・治水部会の部会長代理として森下委員が決定した。
- ・4月中旬に1～2回程度部会を開催する方向で日程調整を行う。
- ・次回の部会では、提言と「淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第1稿）」（以下、説明資料）を比較し、提言内容が反映されていない点や抜けている事項、具体化すべき事項などについて審議を行う。委員は次回の部会（3/27）で検討すべき論点に関する意見を3/21頃までに庶務へ提出する。

2 審議の概要

部会長からのあいさつ及び委員の紹介

部会長あいさつおよび委員の紹介が行われ、部会長代理の選出が行われた。上記「1.決定事項」参照。

部会での検討事項およびスケジュール

資料1「淀川水系流域委員会 第18回委員会 結果概要（暫定版）」、資料2「テーマ別部会について」をもとに、今後の部会での検討事項やスケジュールなどについて説明が行われた。

今後の部会開催について、上記「1.決定事項」の通り決定した。

淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第1稿）に関する意見交換

河川管理者から、資料3-2-1「『淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第1稿）』 質問の回答」、資料3-2-3「委員からの質問と回答」を用いて、委員からの治水に関する質問と意見に対して回答があった。その後、河川管理者の説明に対して、委員からの追加質問があり、意見交換が行われた。主な意見は次の通り。

- ・今後の治水を考える上では、技術では解決できない課題をどう解決していくかが重要。従来とは違う切り口の治水を考えていかなければならない。
- ・応急的堤防強化について説明されているが、これは従来通りの手法であり、提言にある「超過洪水・自然環境を考慮した治水」を実現できないのではないかと。提言では治水の理念転換をうたっているが、説明資料（第1稿）の内容は従来の治水の延長線上に感じる。提言を受けてどこがどう変わったのかを示すなどして、わかりやすく説明してほしい。（部会長）
- ・河川管理者は、時間、予算、環境への影響などを考慮して、提言で述べていることが本当にどこまで実行可能なのかを具体的に示さなければならない。何に対しても「検討したい」と答えていては、審議が進まない。
- ・一度、環境という要素を横に置いて、「治水だけを考えた場合にも、このような転換が必要」ということを明言すべき。それと同時に「河川環境の重要性を考慮することによって、このような転換が必要」という内容と併行して考える必要がある。

一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者 1 名から発言があった。

- ・基本高水流量がどのような論拠に基づいて算出されたのかにまで踏み込んだ審議をお願いしたい。

基本高水流量に対応した治水整備を行っていく従来の手法は、法律に基づいたものであり、簡単には中止できないだろう。しかし、委員会は超過洪水を考慮した治水計画を提言しており、常に意識して委員会の立場から議論していきたい。(部会長)

以上

このお知らせは委員の皆様にご覧いただき、会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。